

平成31年度全国学力・学習状況調査結果の概要

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するため、4月18日（木）に実施した全国学力・学習状況調査の富谷市立学校の結果の概要がまとまりました。

富谷市では、この結果をもとに、教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善などに役立てていきます。

1 調査対象（全小中学校を対象とした悉皆調査）

- (1) 小学校調査 小学校第6学年 8校 667名
- (2) 中学校調査 中学校第3学年 5校 669名（数学・英語は667名）

2 調査事項

- (1) 教科に関する調査（小学校調査は、国語・算数、中学校調査は、国語・数学・英語）
国語・算数・数学については、「知識」と「活用」を一体で問う問題
- (2) 児童生徒質問紙調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査
小学校は、国語が全国の正答率を下回っており、算数は上回っています。中学校の正答率は、全ての教科で全国を上回っています。また、観点別や学習指導要領の領域等で見ると、全国の平均正答率と同じ傾向が見られます。
- (2) 児童生徒質問紙調査
 - ①【生活習慣】「朝食を食べている」「同じくらいの時刻に起きている」と回答した割合は全国を上回っており、一方で「同じくらいの時刻に寝ている」と回答した割合は、中学校において全国を下回っています。
 - ②【学習習慣】「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合は全国を上回っています。また、「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上勉強する」と回答した割合も全国を上回っています。特に、中学校では全国を大きく上回っています。
 - ③【学校生活】「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」と回答した小学校は、全国を下回っているが、中学校は大きく上回っています。また、「学校のきまり・規則を守っている」と回答した割合は、全国を上回っています。
 - ④【授業・学び合い】「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した割合は全国を上回っています。

4 今後の対応

今回の調査結果及び分析結果を本市の教育施策の検証・改善に生かし、子どもたちが学習に意欲をもって取り組めるよう学校、家庭、地域及び市教育委員会が連携して、教育活動の充実や生活・学習状況の改善に取り組みます。なお、今後、各学校においても、課題改善に向けた指導の方向性や対策を明らかにするとともに、保護者にも説明し、家庭での学習についても協力をお願いすることとしております。

小学校国語の結果と改善の方策

結果

【平均正答率（％）】

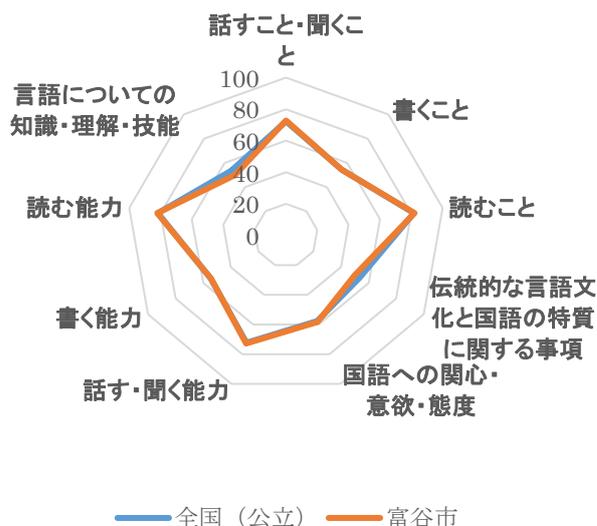
全国	富谷市
63.8	63

〔観点別正答率（％）〕

	全国	富谷市	差
国語への関心・意欲・態度	57.6	58.2	0.6
話す・聞く能力	72.3	72.8	0.5
書く能力	54.5	54.4	-0.1
読む能力	81.7	82.1	0.4
言語についての知識・理解・技能	53.5	50	-3.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

	全国	富谷市	差
話すこと・聞くこと	72.3	72.8	0.5
書くこと	54.5	54.4	-0.1
読むこと	81.7	82.1	0.4
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.5	50.0	-3.5



【正答率が高かった問題と低かった問題について】

- ① **3設問一** 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国を2.7ポイント上回っており、正答率は84.0%です。
- **1設問二・三** 目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題があります。設問二の報告する文章の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の部分における書き方の工夫として適切なものを選択する問題では、正答率は全国平均に比べ1.3ポイント低く、62.1%である。設問三の「3 調査の結果をもとに考えたこと」の部分に「(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」など分かったことをまとめて書く問題では、正答率は全国平均と同様に、29.5%と正答率が著しく低い状況でした。
- **1設問四(1)ウ** 漢字(同音異義語)を文の中で正しく使うことに課題が見られました。「公衆電話についてかんしんをもってもらいたと思います」という文章の下線部を正しい漢字で書く問題では、正答率は全国平均に比べ14.9ポイント低く、20.7%でした。

課題改善の方策

【目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることについて】

書く目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、必要なことをまとめて書くことが大切です。また、調査したことを報告する文章では、調べて分かった事実を基に自分の考えをまとめて書くことができるようにする。その際、報告する目的に応じて、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめることが適切か、その効果を考えて書くことができるようにすることが大切です。

【漢字(同音異義語)を文の中で正しく使うことについて】

同音異義語の使い方では、文中で正しく使う意識をもたせる指導の工夫が必要です。漢字による熟語などの語句の使用が増加する高学年では、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文作りをしたりするなど、文や文章の中で正しく使う練習を意図的に指導することが大切です。

小学校算数の結果と改善の方策

結果

【観点別正答率(%)】

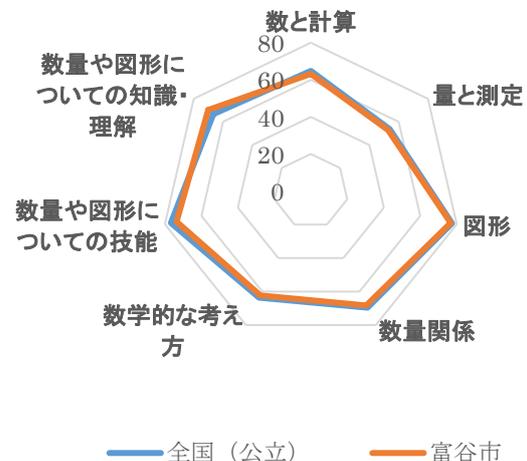
	全国	富谷市	差
算数への関心・意欲・態度	-	-	-
数学的な考え方	62.2	63.7	1.5
数量や図形についての技能	73.6	76.7	3.1
数量や図形についての知識・理解	70.1	66.7	-3.4

【学習指導要領の領域等の平均正答率(%)】

	全国	富谷市	差
数と計算	63.2	64.8	1.6
量と測定	52.9	53.8	0.9
図形	76.7	77.4	0.7
数量関係	68.3	69.6	1.3

【平均正答率(%)】

全国	富谷市
66.6	68



【正答率が高かった問題と低かった問題について】

- ① **2設問(1)** 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は、全国を0.9ポイント上回っており、正答率は96.1%でした。
- ② **3設問(1)** 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができるかどうかをみる問題の正答率は、全国を6.0ポイント上回っており、正答率は87.8%でした。
- **2設問(3)** 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することに課題があります。二つのグラフ(グラフ2・3)から分かることを基に、言葉や数を使って書く問題では、正答率は全国平均に比べ2.1ポイント高くなっているものの、54.2%と正答率が低く課題があります。
- **3設問(2)** 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題が見られました。「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く問題では、正答率は全国平均に比べ0.2ポイント高くなっているものの、31.2%と正答率が著しく低く課題があります。

課題改善の方策

【二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を記述することについて】

資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断させたりすることが大切です。複数の資料の特徴や傾向を関連付けるなど、一つの資料からは判断できない事柄についても判断できるよさを感じさせるようにすることが大切です。

【示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することについて】

計算に関して成り立つ性質を見だし、整理して表現させることが必要です。学習のまとめの段階では、本時の学習内容を児童の発言をもとに抽象化してまとめるなど、納得が得られるよう指導することが必要です。

中学校国語の結果と改善の方策

結果

【平均正答率 (%)】

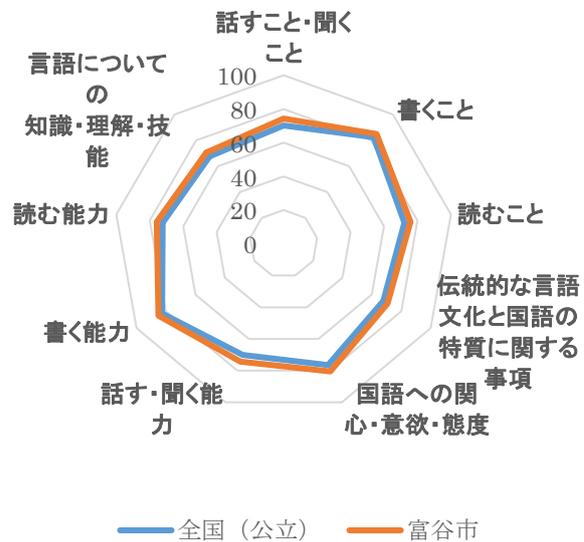
全国	富谷市
72.8	76

〔観点別正答率 (%)〕

	全国	富谷市	差
国語への関心・意欲・態度	76.5	80.5	4.0
話す・聞く能力	70.2	74.3	4.1
書く能力	82.6	85.1	2.5
読む能力	72.2	75.8	3.6
言語についての知識・理解・技能	67.7	70.6	2.9

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

	全国	富谷市	差
話すこと・聞くこと	70.2	74.3	4.1
書くこと	82.6	85.1	2.5
読むこと	72.2	75.8	3.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.7	70.6	2.9



【正答率が高かった問題と低かった問題について】

- ① **1 設問三** 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができるかどうかをみるこの問題では、正答率が 94.9% であり、全国を 3.7 ポイント上回った。
- ② **2 設問一** 話合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみるこの問題では、正答率が 85.9% であり、全国を 5.5 ポイント上回った。
- **1 設問四** 封筒の書き方を理解して書くことができるかどうかをみるこの問題では、全国を 4.3 ポイント上回っているが、正答率は 61.1% と低く課題があります。
- **2 設問三** 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができるかどうかをみるこの問題では、全国を 6.2 ポイント上回っているが、正答率は 64.6% と低く課題があります。

課題改善の方策

【封筒の書き方を理解して書くことについて】

課題が見られた封筒の書き方は、日常的に経験しているものであるため、意識して取り上げ、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書くよう指導を行う必要があります。毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して適切に設定して指導するとともに、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導することが大切です。

【話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことについて】

目的や場面に応じて話し合い、自分の考えをまとめられるよう指導を工夫する必要があります。日頃から意識した学び合いを大切に、話すことに関する指導事項及び聞くことに関する指導事項との密接な関係を図って指導することが大切です。

中学校数学の結果と改善の方策

結果

【平均正答率 (%)】

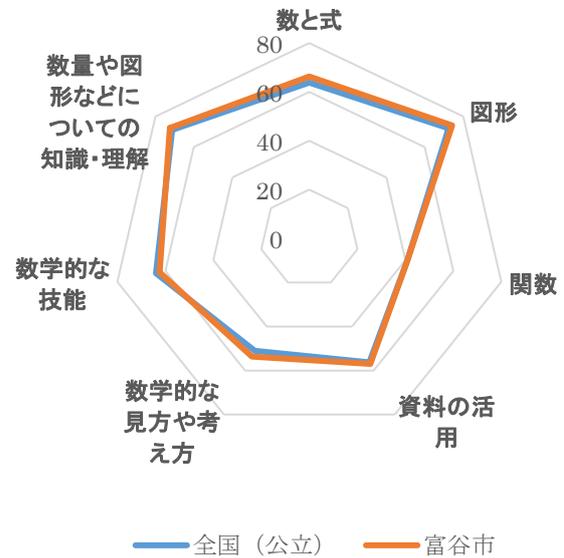
全国	富谷市
59.8	61

【観点別正答率 (%)】

	全国	富谷市	差
数学への関心・意欲・態度	-	-	-
数学的な見方や考え方	51.0	53.7	2.7
数学的な技能	63.9	62.4	-1.5
数量や図形などについての知識・理解	71.3	72.5	1.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

	全国	富谷市	差
数と式	63.8	66.3	2.5
図形	72.4	74.2	1.8
関数	40.8	40.9	0.1
資料の活用	56.3	57	0.7



【正答率が高かった問題と低かった問題について】

- ① **7設問 (2)** 反例の意味を理解しているかどうかをみるこの問題では、正答率は80.5%で、全国を3.3ポイント上回っている。
- **6設問 (2)** 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみるこの問題では、正答率は37.0%で全国より2.3ポイント下回っており、課題があります。
- **8設問 (3)** 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができるかどうかをみるこの問題では、全国を3.5ポイント上回っているが、正答率は57.1%と低く課題があります。

課題改善の方策

【問題解決の方法を数学的に説明することについて】

事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実が必要です。問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切です。

【問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することについて】

データの分布の傾向を読み取り、判断することを通して、統計的に問題解決する活動の充実が必要です。日常生活や社会の事象における問題について、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの分布の傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させることが大切です。

中学校英語の結果と改善の方策

結果

【平均正答率（％）】

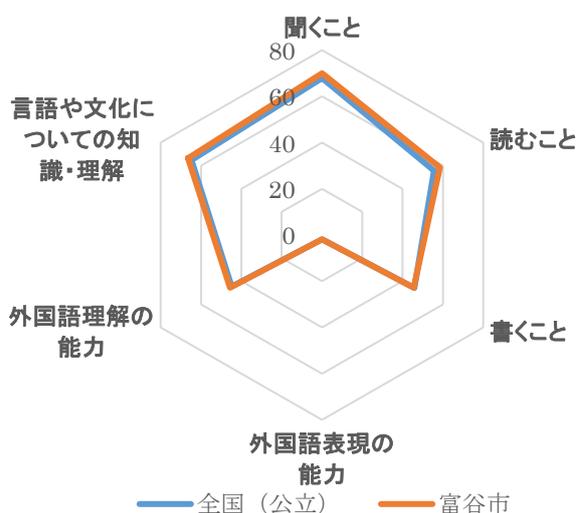
全国	富谷市
56.0	57

〔観点別正答率（％）〕

	全国	富谷市	差
聞くこと	67.9	70.0	0.1
読むこと	55.6	58.5	2.9
書くこと	45.8	45.6	-0.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

	全国	富谷市	差
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	-	-	-
外国語表現の能力	1.8	1.9	0.1
外国語理解の能力	44.7	45.6	0.9
言語や文化についての知識・理解	64.7	66.4	1.7



【正答率が高かった問題と低かった問題について】

① 5 設問 (1)・(2)・(3) 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるかどうかをみる問題でした。3 問とも全国を上回り、良好な結果でした。

設問 (1) は、libraries を説明する英文を正確に読み取る問題で、文脈の中で英語の意味を推測しながら読むことができるかどうかをみる問題で、正答率は 84.9% で、全国を 5.5 ポイント上回っています。

設問（２）は、ある状況を描写している英文を正確に読み取る問題です。動詞や前置詞などといった読み取りのキーワードとなる語句を正しく理解することができるかどうかをみる問題で正答率は77.7%で、全国を3.3ポイント上回っています。

設問（３）は、気温の変化を表すグラフを見て、グラフの内容を正しく表している英文を選ぶ問題です。月名や比較を表す英文を正確に読み取るができるかどうかをみる問題で正答率は77.8%で、全国を4.7ポイント上回っています。

●**7** まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができるかどうかをみるこの問題では、正答率が全国と同程度ですが、32.8%と著しく低く課題がみられます。「大切な部分を理解する」とは、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断することです。多くの生徒は、書き手が最も伝えたい内容を理解できなかった様です。

●**10** 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみるこの問題では、全国と同程度の正答率でしたが、正答率は1.9%と著しく低い結果でした。「まとまりのある文章を書く」とは、自分の考えに加えてその理由を述べているなど、文と文の順序や、相互の関連に注意を払い、全体として話題や文章構成に一貫性のある文章を書くことです。まとまりのある文章を書くことに課題が見られます。

課題改善の方策

【まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することについて】

理解した内容を踏まえ、目的・場面・状況に応じて、話し手や書き手の伝えたいことは何かを理解するなど、概要や要点を捉えられるようにする指導の工夫が必要です。

【与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことについて】

基本的な語や文法事項等の知識を活用することに課題があり、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くときにおいても、基本的な語や文法事項等の知識を活用させ、相手に伝わる英語で表現することができるようにする指導の工夫が必要です。

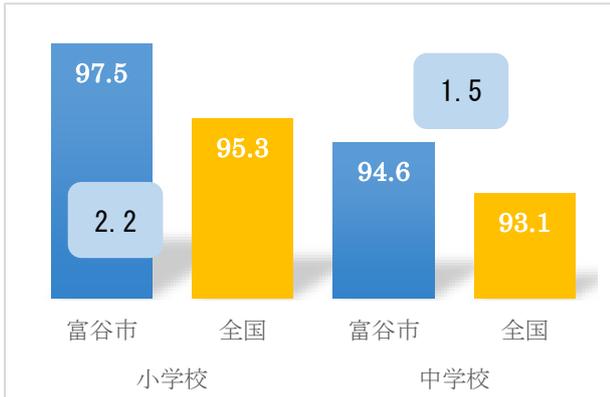
今後も、新学習指導要領が求める学習指導を主体的に理解し、着実に実施していくことが大切です。

質問紙調査の結果と分析

() 内の数字は質問紙調査の問題番号

生活習慣

Q 朝食を毎日食べていますか (1)



Q 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか (2)



Q 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか (3)



「朝食を毎日食べている」、また「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童生徒の割合は、全国に比べると高くなっています。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒の割合は、全国に比べると若干低くなっています。

今後も、学級活動や学校便りで話題にするなど、規則正しい生活習慣を身に付け、健康に留意して生活できるよう、学校や家庭で子どもと一緒に話し合う機会をつくるのが大切です。

自己有用感

Q 自分には、よいところがあると思いますか (5)



自分にはよいところがあると思うか、という質問において「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は、全国と比べて小・中学校ともに低くなっています。しかし、年々肯定的に答える生徒の割合は増加しています。

授業や学校行事、日常の当番活動や係活動などにおいて、よいところを認め具体的に伝えること、そして学級・学年においては、互いのよさを認め合える集団づくりを行っていくことが大切です。

規範意識

Q 学校のきまり・規則を守っていますか (13)



Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (15)



「学校のきまり・規則を守っている」と答えた割合は、小学生に比べ中学生の方が高く、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた割合は中学生の方が低くなっています。

全国平均と同様の傾向となっておりますが、規範意識を高めるためには、学校の様々な教育活動を通じて、学校全体で組織的に、発達段階に応じて、重点的かつ具体的な指導を行うことが大切です。さらに、道徳教育と関連させ、児童生徒の実態や、学校の特色を考慮した重点内容項目を定め、全職員が普段から意識して指導にあたることで、効果的な指導につながります。

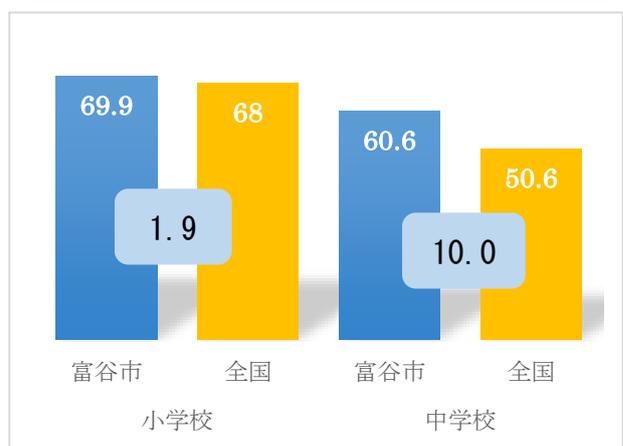
また、いじめの問題については、「あなたならどうするか」を真正面から問い、自分の事として考えさせ、話し合わせを通して「いじめられる側にも問題がある」という考え方を乗り越えられるようにすることが大切です。

地域との関わり、家庭でのコミュニケーション、社会に対する興味・関心

Q 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか (4)



Q 今住んでいる地域の行事に参加していますか (23)



Q 新聞を読んでいますか（26）



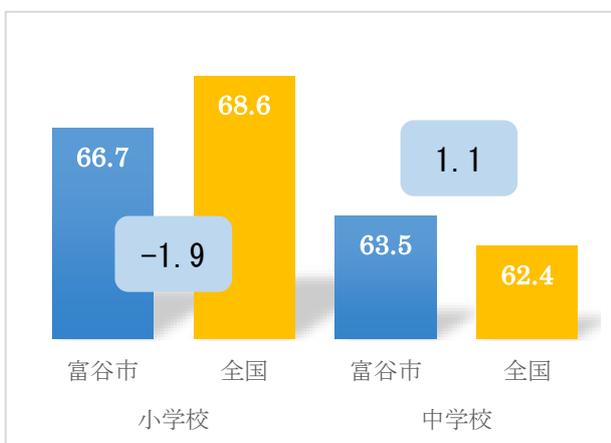
家庭でのコミュニケーションがとれている割合や地域と関わっている割合は、全国に比べると高くなっています。

新聞を読んでいる割合は、全国に比べると低くなっています。

日常の様子に加え、地域のことや新聞、ニュース等の情報について、朝の会や帰りの会で話題にし、子どもがどのように感じとり、どのようなことを考えているかを聞くなどの機会をつくるのが大切です。

国際理解

Q 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか（25）



Q 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか（26）



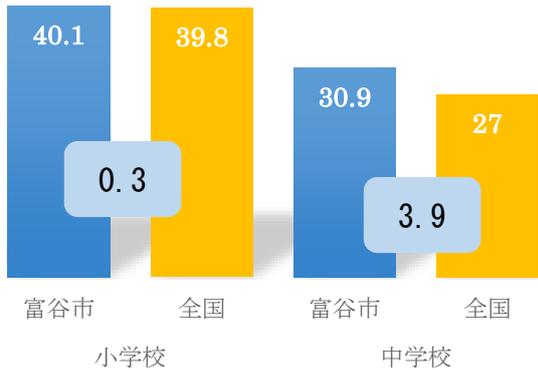
外国に対する興味・関心の全国に比べての差については、地域の実態や児童生徒の生活環境等の違いも要因の一つと思われます。各学校においては、それらの実態と新学習指導要領の趣旨を踏まえて取り組むことが大切です。

小学校では、ALTの方々や地域の人材を活用し、異なる文化をもつ人々との交流など体験させ、文化等に対する理解を深めることができる機会を設けていくことが大切です。

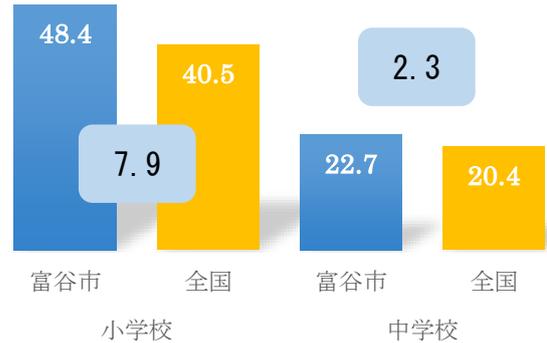
中学校では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する機会をこれまで以上に重視し、そこで表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けさせることにより、主体的な態度を養っていくことが大切です。

読書の時間

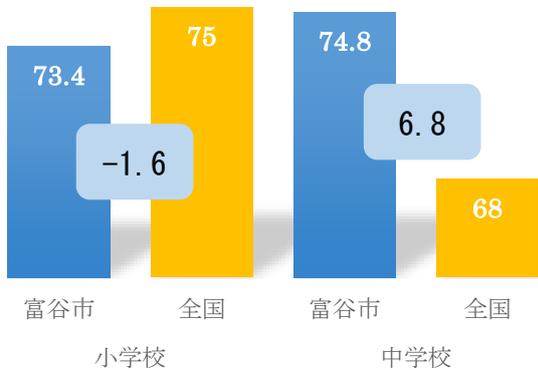
Q 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（30分以上）（19）



Q 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか（月1回以上）（20）



Q 読書は好きですか（21）

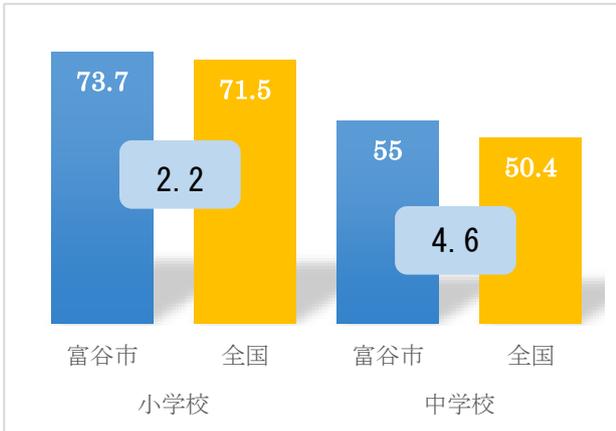


学校の授業時間以外に、1日当たり30分以上、読書をしている割合は、全国に比べると高くなっています。「読書が好き」と回答した中学校生徒の割合は、全国に比べて高くなっています。中学校においては、朝読書の時間を設定したり、国語科の教員や図書指導員が積極的に関わり「調べる学習コンクール」への作品制作・出品を支えたりするなどの取組が定着してきていると考えられます。小学校の児童は、全国と比べて若干下回っています。小学校段階においては調べ学習により、探求心を芽生えさせることにより、本を見る機会をつくっていくことも大切です。

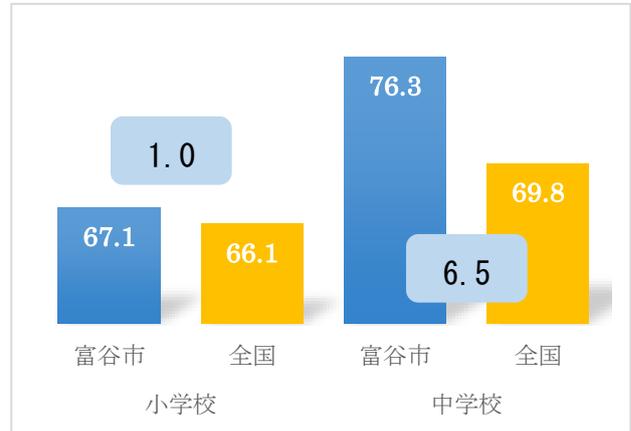
また、就学前の頃から「読み聞かせ」をすることで、子どもが読書好きになったということも言われています。身近な大人による「読み聞かせ」により、本やストーリーというものに興味をもたせる良い方法です。

家庭学習

Q 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（17）



Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）（18）

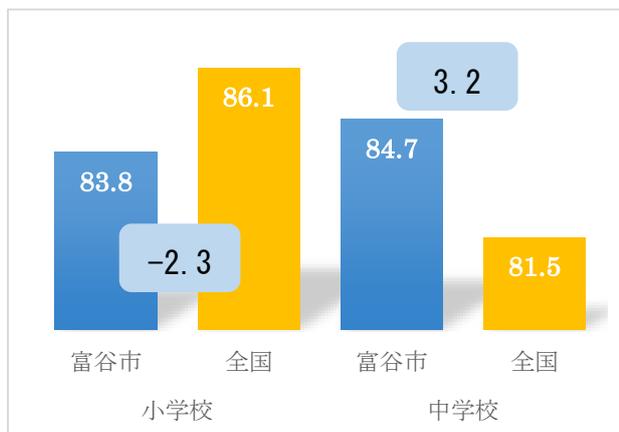


学校の授業時間以外で、平日に1時間以上勉強する割合は、小・中学校ともに全国と比べ高くなっています。また、自分で計画を立てて勉強することについては、小・中学生ともに全国と比べると高くなっています。

計画を立てて学習する具体例を示し参考にさせたり、計画的な学習の効果を知らせたりするなど、継続的な指導が大切です。また、授業と家庭学習を連携させ、家庭学習の習慣化や質の向上に向けた取組も大切です。

学校について

Q 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか（6）



先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うかという質問に対して、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童・生徒の割合は、昨年度に比べ、増加していますが、小学校が全国に比べ、低い状況が続いています。

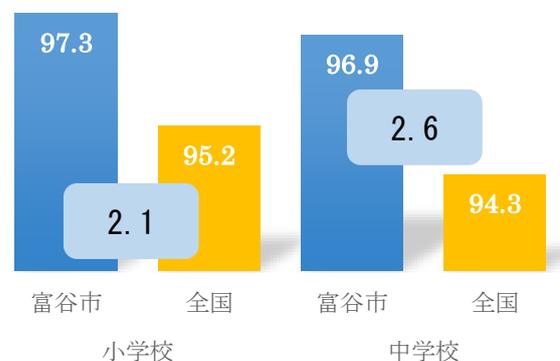
児童生徒が学校に魅力を感じ、意欲的に活動するのは、集団生活の中で、新しい考え・人間関係・技能・知識等を得ることで、新しい自分や進歩した自分を感じとったり、自分の取組に満足感を得たりした時などが考えられます。日常の教育活動において、子ども自身が向上や変容を感じることができるよう、具体的に伝えていくことが大切です。

将来の夢や目標について

Q 将来の夢や目標を持っていますか
(8)



Q 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(16)



将来の夢や目標をもっている小学校児童の割合は、全国と比べて高くなっていますが、中学校生徒の方は低い傾向がみられます。人の役に立つ人間になりたいと思っている割合は、ここ数年増加し、全国と比べても高くなっています。

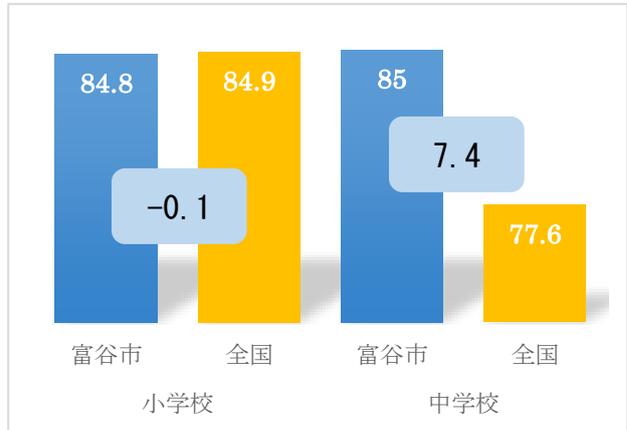
自己をしっかりと見つめさせ、将来の夢や希望について考える場と時間、さらにそれについて教師と一緒に語り合える場を設定することが大切です。また、地域活動への参加や、学校の教育活動の中で子どもたち一人一人に積極的に役割を与えるなど、自信を持ち、自分の価値に気づかせ自己有用感を高める指導も大切です。

国語の授業について

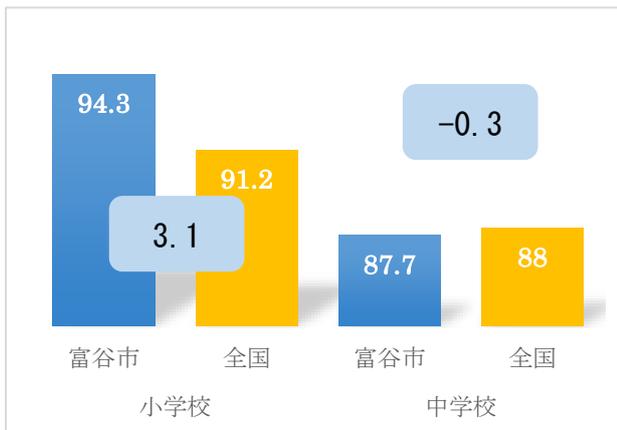
Q 国語の勉強は好きですか（40）



Q 国語の授業の内容はよく分かりますか（42）



Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（43）



Q 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか（46）



国語の勉強が好き、授業内容がよく分かると肯定的に答えている児童生徒の割合は、小学校において、全国と比べて低くなっていますが、中学校においては全国よりも高い状況です。教師が生徒のよいところを認め、理解の不十分な部分を分かるまで教えていることが、数値にも現れています。例えば、教師が昼休みや放課後の部活前といった中学校の日常生活の短い時間を使って補充指導を行い、基礎基本を繰り返し定着させるといったきめ細やかな指導を行うことで、些細な「つまずき」を後々まで持ち越さない工夫がなされたり、長期休業日を利用した補充的な学習サポートが行われている中学校も複数存在します。

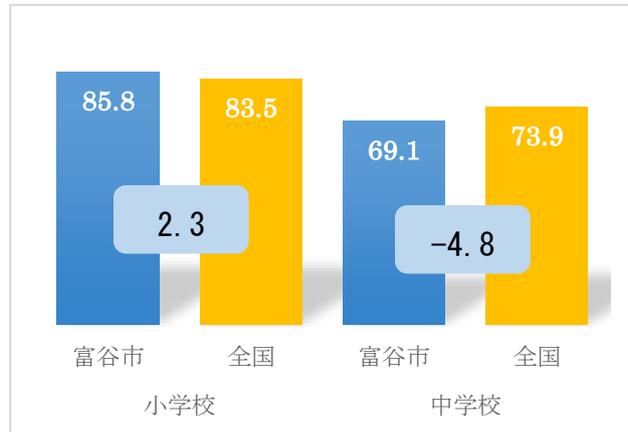
国語の授業で話や文章の組み立てを工夫したと答えた児童生徒の割合についても、中学校において、全国に比べ高い状況です。これは、言語活動について教職員同士が協力し、国語科だけではなく、各教科、総合的な学習の時間や特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいるためと考えられます。今後も生徒自ら、学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するアウトプットを重視した学習が教科を超えた学校全体の取組として推進していくことが大切です。

算数・数学の授業について

Q 算数（数学）の勉強は好きですか
（49）



Q 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか（51）



Q 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか
（54）



Q 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（52）

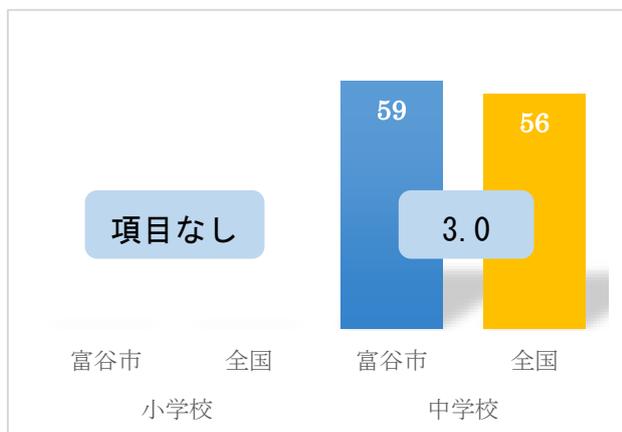


昨年度の「算数(数学)の授業の内容がよく分かる」と回答した割合は、小中学校いずれかにおいても、全国を下回っていましたが、今年度小学校において、全国の割合を上回りました。中学校においては、依然として、全国を下回っています。今後も、児童・生徒の課題を把握して、授業の改善を図るために、国立教育政策研究所作成の「授業アイデア例」と「解説資料」「報告書」を活用することが効果的です。また、「学び合い」により、自分の力だけでは分からない児童・生徒に「教えて」「どうやるの」ときける人間関係づくりや教師が「〇〇さんが、ここが分からないと言っている。みんなどう?」と分からなさを繋いで解決していく取組も大切です。

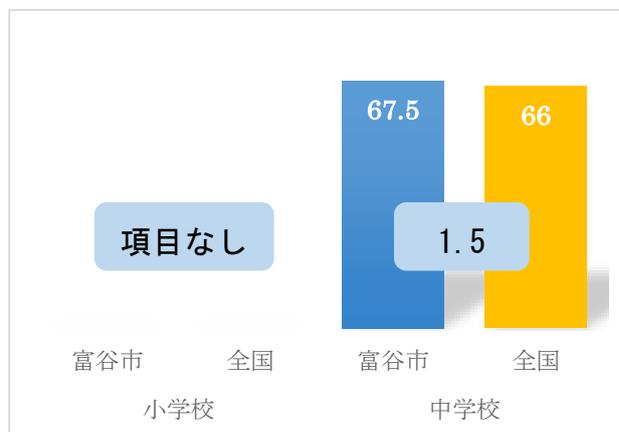
小学校では、「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたい」と回答した割合が全国よりも高くなっています。その学びへの意欲や知的好奇心を大切にしていくためにも、児童にとって新しい発見や学びのある学習課題を提示していくことが必要です。

英語の授業について

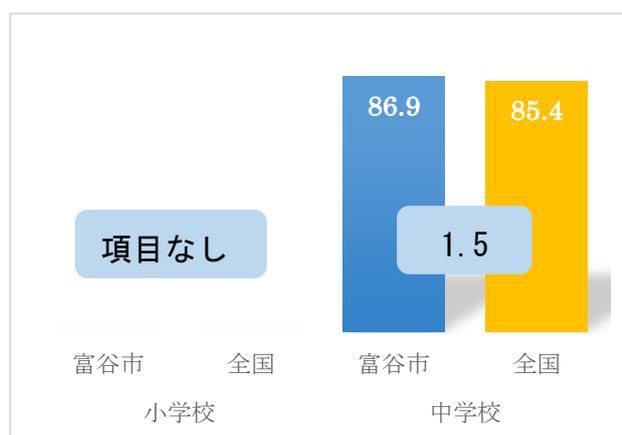
Q 英語の勉強は好きですか（60）



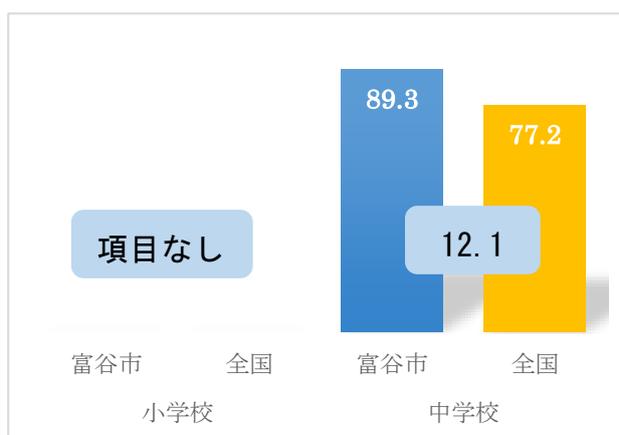
Q 英語の授業はよく分かりますか（62）



Q 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（63）



Q 1, 2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか（69）



英語が好き、授業内容がよく分かると肯定的に答えている生徒の割合が全国と比べて、同程度または、若干高くなっています。今後も、英語担当教師 ALT との間で、授業のねらいや生徒の実態等について共通認識をもって協力して授業を行っていくことが大切です。

また、他の質問項目からは、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で意見を述べ合ったり、自分の考えを英語で書いてまとめたものを発表したりするといった技能統合の言語活動が行われていることが数値から読み取れますが、原稿などの準備をすることなく、即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動を行っていくことも大切です。

英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動が行われていることが読み取れます。「話すこと」の言語活動に強く関連する活動ですので、この取り組みを大切にしていきたいと思います。

学び合い・主体的な学び

Q 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（32）



Q 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか（38）



Q 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか（39）



話し合う活動を通じて「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「自分で考え、自分から取り組んでいる」「自分の考えがうまく伝わるように、工夫して発表していた」と答えている割合は、小・中学校ともに、全国と比べて高い状況です。

課題の解決に向けて「自分で考え、自分から取り組んでいた」また、話し合う活動を通じて「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童の割合は昨年度の調査では、全国より低くなっていましたが、改善されてきています。今後も、主体的な学習活動を促すことができるような新しい発見や学びのある学習課題を提示していく必要があります。それから、自分の考えを発表して終わりではなく、話し合いに広がりや深まりが生まれるように手立てを考えていく必要があります。また、考えの深まりや学びの自覚につなげていくことができるように、グループや全体での学びの後に、一度、個に戻し、考えを整理させる場の設定も検討していく必要があります。質の高い学びを実現するためには、学習課題、必要感のある学び合い、目的にあった学習形態など指導のねらいにそって吟味していくことが大切です。さらに、日々の授業において、児童生徒のつまずきや誤答を生かしながら、目の前の児童生徒の状況に応じて学習過程を柔軟に修正していくよう、教材研究を深め、指導者自身が授業の振り返りを行うことも大切です。